

市街地復興効果促進事業の概要を示す書類

事業番号	★ D 23 - 3 - 1
要綱上の事業名称	(42) 観光交流・物産交流センター整備事業
細要素事業名	海洋性体験型観光拠点施設整備事業
全体事業費	58,627 (千円) (前回提出時 50,000千円)

※設計を踏まえて増額

【事業概要及び東日本大震災の被害との関係】

当町の観光業の中心である船越地区は、東日本大震災により観光施設が甚大な被害を受けたが、復旧・復興事業により、浦の浜海水浴場をはじめとして、鯨と海の科学館や隣接する船越公園、復興かき小屋等が再開し、観光業の再生が進められている。

しかしながら、震災後に大幅に落ち込んだ観光入込者数は回復するまでに至っておらず（観光入込者数：H22年 651千人、H29年 381千人）、震災前の賑わいを取り戻すためには地域の特性に着目した新たな観光資源の発掘が急務となっている。

このため、山田湾南岸に面する穏やかな自然環境という立地条件である同地区の特性を生かし、シーカヤックを中心とした海洋スポーツや体験学習による観光振興を計画しており、本事業でシーカヤックの試乗体験ができる施設を整備(※)し、観光客の誘客と「体験」を通じた交流人口の拡大を図る。

※震災前は、大沢地区にあった旧種苗センターを利用して同様の観光拠点としていたが、津波で流出。大沢地区は従前施設が国道45号から大きく離れ、誘客に不便な立地であったことから、国道45号からのアクセスが良く、山田町観光復興ビジョンで海水浴場・鯨と海の科学館・道の駅やまだ等と連携した観光促進区域と位置づけられている船越地区（浦の浜区域）に、移転整備する

【基幹事業との関連性】

船越地区（浦の浜区域）に本施設を整備することにより、船越・田の浜地区防災集団移転促進事業の移転住民同士及び訪れた交流訪問者と交流機会が拡大することでコミュニティの形成を支援するものであり、基幹事業の効果を促進するものである。

【事業期間】

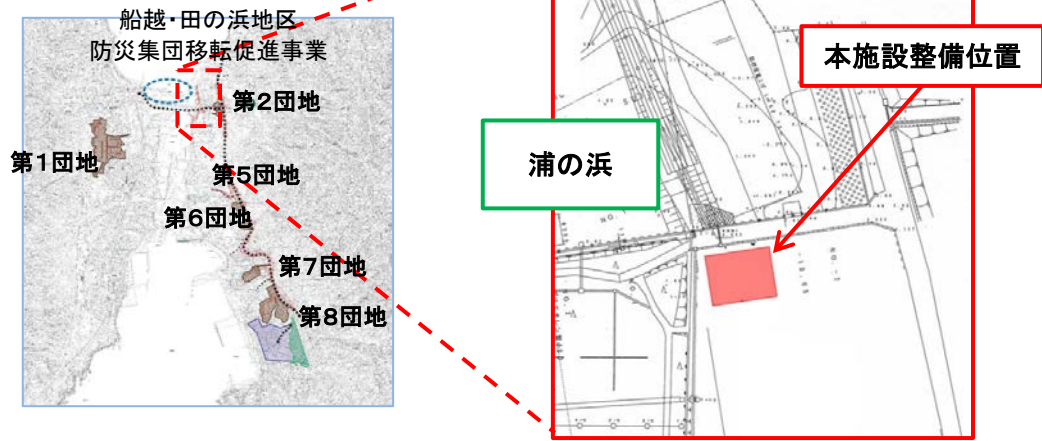
- ・調査設計：平成29年10月～平成30年3月
- ・建設工事等：平成31年7月～平成32年3月

【事業費及び経緯】

事業年度	事業内容	事業費	備考
平成29年度	測量試験費（基本設計、詳細設計）	4,968千円	延床面積：158.16㎡ 木造2階建て
平成31年度	測量試験費（工事監理、備品購入）	3,664千円	
	本工事費	49,995千円	(参考 旧施設) 延床面積248㎡、木造平屋建て
事業費合計		58,627千円	

※本事業は平成25年2月に設計について用途決定を行っているが、用途決定後に本事業の隣接地で岩手県の海岸環境整備事業（砂浜及び管理棟などの復旧）が浮上した。本事業の実施に当たっては、岩手県の海岸環境整備事業が先行して着手していたため、当時の方針としてその竣工図等を基に実施予定であった。海岸環境整備事業は平成26年度から実施設計に入り平成28年度に竣工したため、平成29年度から本事業の設計に入っており、そのため、当初の設計の用途決定から今回用途決定まで6年以上の期間が空いている。

【事業位置図】 ※関連する基幹事業：D-23-7



【参考】

区 分	事業費	内 訳	回答日
提出済額	10,000千円	平成25年度事業費	H25. 2. 18
今回提出額	▲ 5,032千円	平成25年度事業費 (入札差金による減)	
	53,659千円	平成31年度事業費	
合 計	58,627千円		

- ※ この様式は、原則として、参考様式第2.9及び参考様式第3.2の別添2に記載した細要素事業ごとに作成してください。
- ※ 「全体事業費」は、細要素事業（当該細要素事業と一体不可分な事業を含む。）について、全体事業期間を通じての全ての事業費を記載して下さい。
- ※ 細要素事業の概要を示す図面を添付して下さい。